

大都市ひとり暮らし高齢者の生活特性 —住居形態に着目して—

東洋大学福祉社会開発研究センタープロジェクト1 研究支援者
小椋 佑紀

I. 研究目的

1990年代以降、社会福祉基礎構造改革、分権化を背景として、基礎自治体レベルでの社会福祉サービス供給体制への転換が図られてきた。その一方で、孤立死に象徴される社会的孤立など、高齢者をめぐる深刻な状況が次々と明らかになっている。

内閣府(2010)『平成22年版 高齢社会白書』では、「高齢者の状況」のひとつとして社会的孤立¹⁾が取りあげられている。これによると、高齢者の社会的孤立の特徴として、「単身世帯、未婚者・離別者、暮らし向きが苦しい者、健康状態がよくない者」が挙げられている。また、その対策では、支援者としての高齢者の活動を可能とすること、「人との『つながり』を持てる機会づくり」、行政と民間のネットワークによる「柔軟かつ多様な対応」が肝要とされている。

今年度、福祉社会開発研究センター(大都市グループ1-1)では、「墨田区ひとり暮らし高齢者実態調査」(2008)のデータから、基礎自治体での社会的孤立防止へ向けた取り組みの手がかりとなるような、地域指標づくりを進めてきた。これまでの作業では、生活実態をより具体的に捉えるため、住居形態に着目した分析を行ってきた。その経過報告として、本稿では、住居形態別にみた大都市ひとり暮らし高齢者の生活実態の特徴を明らかにする。

II. 方法

本研究で使用する「墨田区ひとり暮らし高齢者実態調査」は、2008年7月末日現在、東京都墨田区在住の65歳以上の全独居世帯(特別養護老人ホーム入所者除く)、14,813人を対象に実施されたものである(回収率40.5%)。墨田区高齢者福祉課と東洋大学福祉社会開発研究センターは、共同研究協定を結んでおり、本研究はこれに基づいて行われている。

住宅形態別の分析にあたっては、住宅所有の有無により居住年数や暮らし方(例:人とのつながり)の違いが存在するのではないかと考えた。そして、住居形態に関する設問を持ち家/持ち家以外²⁾に大別し、この二分類による分析、さらには各住居形態を地域包括支援センター別に細分化した分析を行った³⁾。本稿では、持ち家/持ち家以外の二分類の結果を中心とし、これを補充するものとして地域包括支援センター別の結果も適宜とりあげる。

III. 結果

1. 居住年数、ひとり暮らしのきっかけ

はじめに、調査時点での、現住所地における居住年数をみておきたい。持ち家/持ち家以外の二分類で平

均居住年数をみた場合、持ち家の場合により長期的な同一地での生活がみてとれる(表1-1)。地域包括支援センター別(表1-2)でも、持ち家の場合で居住年数が長い。ただし、中央値も併せてみると、持ち家のうちH地域が比較的短く、持ち家以外のうちE地域が長いという特徴がみられる。

また、ひとり暮らしとなったきっかけ(表1-3)は、持ち家/持ち家以外共に配偶者の死が最も多いが、両者間では約2割の開きがある。持ち家以外では、「未婚・離別」の場合も多い。

表1-1 現住所地の平均居住年数

住居形態	平均値	中央値	度数
持ち家	40.59	43.00	2759
持ち家以外	19.11	14.50	2600
合計	30.17	29.00	5359

表1-2 現住所地の平均居住年数(地域包括支援センター別)

住居形態 地域包括支援センター	持ち家							
	A	B	C	D	E	F	G	H
平均値	43.66	40.49	42.31	43.27	39.43	38.64	41.34	36.04
中央値	46.00	42.50	43.00	46.00	45.00	40.00	45.00	33.00
度数	298	334	519	288	215	309	363	433
住居形態 地域包括支援センター	持ち家以外							
	A	B	C	D	E	F	G	H
平均値	19.95	15.72	18.37	17.02	23.71	16.85	16.10	17.98
中央値	18.00	10.00	10.50	12.00	25.00	12.00	10.00	15.00
度数	385	236	386	205	618	307	230	233

表1-3 ひとり暮らしのきっかけ×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
配偶者が亡くなったため	度数	1686	1000	2686
	%	58.1%	37.2%	48.0%
配偶者以外の同居者がなくなったため	度数	298	183	481
	%	10.3%	6.8%	8.6%
同居者と別居することとなったため	度数	400	506	906
	%	13.8%	18.8%	16.2%
未婚・離別	度数	292	649	941
	%	10.1%	24.1%	16.8%
その他	度数	227	353	580
	%	7.8%	13.1%	10.4%
合計	度数	2903	2691	5594
	%	100.0%	100.0%	100.0%

2. 健康

健康状態については、持ち家以外で不健康と感じている割合が高い(表2-1)。これと関連して、「健康のことで困っていること」について、持ち家/持ち家以外の間で有意差(p<.01またはp<.05)が認められた項目として、「食事が十分にとれず、栄養状態が悪くなっているのではないかと不安である」、「特に困っていることはない」がある(表2-2、表2-3)。

地域包括支援センター別分析結果(表2-4)の有意差(p<.05)および調整済み残差から、一部の地域(持ち家以外C、持ち家以外D、持ち家以外G)で当該問題が顕著であることがみてとれる。

表2-1 健康×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
健康である・まあ健康である・どちらとも言えない	度数	2079	1727	3806
	%	70.5%	62.2%	66.5%
	調整済み残差	6.7	-6.7	
あまり健康ではない・健康ではない	度数	869	1049	1918
	%	29.5%	37.8%	33.5%
	調整済み残差	-6.7	6.7	
合計	度数	2948	2776	5724
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値44.319、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

表2-3 健康に関して「特に困っていることはない」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	754	638	1392
	%	28.2%	25.4%	26.9%
	調整済み残差	2.2	-2.2	
非該当	度数	1922	1869	3791
	%	71.8%	74.6%	73.1%
	調整済み残差	-2.2	2.2	
合計	度数	2676	2507	5183
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値4.902、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).027

表2-2 「食事が十分にとれず、栄養状態が悪くなっているのではないかと不安である」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	188	313	501
	%	7.0%	12.5%	9.7%
	調整済み残差	-6.6	6.6	
なし	度数	2488	2194	4682
	%	93.0%	87.5%	90.3%
	調整済み残差	6.6	-6.6	
合計	度数	2676	2507	5183
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値44.185、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

表2-4 「食事が十分にとれず、栄養状態が悪くなっているのではないかと不安である」×住居形態(地域包括支援センター別)

	持ち家									持ち家以外								合計
	A	B*	C	D	E	F	G	H*	A	B	C*	D*	E	F	G*	H		
あり	度数	22	21	39	24	16	20	25	21	45	26	51	31	68	34	32	26	501
	%	7.7%	6.5%	7.7%	8.7%	7.9%	6.7%	6.9%	5.0%	12.4%	11.2%	14.0%	14.8%	11.6%	11.5%	14.6%	10.9%	9.7%
	調整済み残差	-1.2	-2.0	-1.6	-.6	-.9	-1.8	-1.8	-3.4	1.8	.8	2.9	2.6	1.7	1.1	2.5	.7	
なし	度数	264	303	467	253	187	279	336	399	318	206	312	179	519	261	187	212	4682
	%	92.3%	93.5%	92.3%	91.3%	92.1%	93.3%	93.1%	95.0%	87.6%	88.8%	86.0%	85.2%	88.4%	88.5%	85.4%	89.1%	90.3%
	調整済み残差	1.2	2.0	1.6	.6	.9	1.8	1.8	3.4	-1.8	-.8	-2.9	-2.6	-1.7	-1.1	-2.5	-.7	
合計	度数	286	324	506	277	203	299	361	420	363	232	363	210	587	295	219	238	5183
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注1) Pearsonのカイ2乗値53.106、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

注2) 調整済み残差121以上の地域に「*」をつけている。

3. 経済的な状況

表3-1をみると、家計状況が苦しいと感じている割合が、持ち家で約2割、持ち家以外では4割を超えている。

その他、金銭的事項について、持ち家では「固定資産税や相続税等税金の問題で困っている」、持ち家以外では「家賃が高い」、「お金がかかるため」に地域の団体・集まりに参加しない場合で、有意差が認められた(表3-2、表3-3、表3-4、 $p<.01$)

表3-1 家計状況×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
どちらかといえば苦しい・かなり苦しい	度数	546	1225	1771
	%	18.7%	44.9%	31.4%
	調整済み残差	-21.2	21.2	
かなり余裕がある・どちらかといえば余裕がある・余裕はないが困るようなことはない	度数	2370	1505	3875
	%	81.3%	55.1%	68.6%
	調整済み残差	21.2	-21.2	
合計	度数	2916	2730	5646
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値447.777、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) 2.198E-99

表3-2 「固定資産税や相続税等税金の問題で困っている」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	173	16	189
	%	7.5%	.7%	4.0%
	調整済み残差	11.9	-11.9	
非該当	度数	2124	2368	4492
	%	92.5%	99.3%	96.0%
	調整済み残差	-11.9	11.9	
合計	度数	2297	2384	4681
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値142.104、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) 9.229E-33

表3-3 「家賃が高い」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	10	618	628
	%	.4%	25.9%	13.4%
	調整済み残差	-25.6	25.6	
非該当	度数	2287	1766	4053
	%	99.6%	74.1%	86.6%
	調整済み残差	25.6	-25.6	
合計	度数	2297	2384	4681
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値654.219、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) 2.701E-144

表3-4 「お金がかかるため」に地域の団体・集まりに参加しない×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	70	219	289
	%	6.7%	15.8%	11.9%
	調整済み残差	-6.9	6.9	
非該当	度数	977	1171	2148
	%	93.3%	84.2%	88.1%
	調整済み残差	6.9	-6.9	
合計	度数	1047	1390	2437
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値46.996、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) .000

4. 普段の楽しみ

「ふだん、楽しみにしていることはありますか」という設問に対して、「ない」と答えた割合は、持ち家で24.3%、持ち家以外で38.2%と後者で高い割合となっており、有意差も認められた(表4、 $p<.01$)。

表4 普段の楽しみの有無×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
ある	度数	1895	1440	3335
	%	75.7%	61.8%	69.0%
	調整済み残差	10.4	-10.4	
なし	度数	609	889	1498
	%	24.3%	38.2%	31.0%
	調整済み残差	-10.4	10.4	
合計	度数	2504	2329	4833
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値108.218、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) 2.408E-25

表5-1-1 「最もよくつきあいのある家族・親族」との連絡頻度「年に数回以下」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	394	482	876
	%	14.4%	22.9%	18.1%
	調整済み残差	-7.6	7.6	
非該当	度数	2334	1619	3953
	%	85.6%	77.1%	81.9%
	調整済み残差	7.6	-7.6	
合計	度数	2728	2101	4829
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値57.729、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) .000

5. 人とのつながり

(1) 普段の人との関わり

普段の人との関わりを示す項目として、家族・親族との関わり、近所付き合い、電話の利用頻度、「1日、誰とも話さなかった」ことの頻度を分析した。表5-1-1から表5-1-5のそれぞれで、人との関わりが希薄な内容に対して、持ち家以外の割合が高く、有意差も認められた ($p < .01$)。

また、現在の悩み・心配に関する設問中、持ち家で約2割、持ち家以外で約3割のひとり暮らし高齢者が、「孤立感・孤独感」をもっている(表5-1-6)。

人とのつながりに関するニーズは、持ち家で1割未満、持ち家以外で約2割となっており、両者間では有意差も認められる(表5-1-7、 $p < .01$)。これを地域包括支援センター別にみると、有意差 ($p < .05$) および調整済み残差から、同じ持ち家以外であってもA・B・D・E地域とC・F・G・H地域で、ニーズに温度差があることが明らかになった(表5-1-8)。

表5-1-2 「最もよくつきあいのある家族・親族」と会う頻度「年に数回以下」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	629	725	1354
	%	23.6%	35.6%	28.8%
	調整済み残差	-9.0	9.0	
非該当	度数	2041	1311	3352
	%	76.4%	64.4%	71.2%
	調整済み残差	9.0	-9.0	
合計	度数	2670	2036	4706
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値81.858、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) .000

表5-1-3 近所付き合い×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
ちよつと相談をしたり家を行き来する・よく立ち話をする	度数	1593	1076	2669
	%	54.6%	39.3%	47.2%
	調整済み残差	11.5	-11.5	
あいさつ程度の付き合い・ほとんど交流はなし	度数	1323	1661	2984
	%	45.4%	60.7%	52.8%
	調整済み残差	-11.5	11.5	
合計	度数	2916	2737	5653
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値132.897、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) 9.525E-31

表5-1-4 電話の利用頻度(1日あたり)×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
ふだん利用しない、あっても1回	度数	1311	1544	2855
	%	46.2%	58.9%	52.3%
	調整済み残差	-9.4	9.4	
2-3回以上	度数	1527	1076	2603
	%	53.8%	41.1%	47.7%
	調整済み残差	9.4	-9.4	
合計	度数	2838	2620	5458
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値88.591、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

表5-1-5 「1日、誰とも話さなかった」ことが「よくある」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	605	798	1403
	%	20.7%	29.0%	24.7%
	調整済み残差	-7.3	7.3	
非該当	度数	2321	1951	4272
	%	79.3%	71.0%	75.3%
	調整済み残差	7.3	-7.3	
合計	度数	2926	2749	5675
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値53.127、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

表5-1-8 困りごと「話し相手や相談相手がない」×住居形態(地域包括支援センター別)

住居形態	地域包括支援センター	持ち家								持ち家以外								合計
		A	B*	C*	D*	E	F*	G*	H	A*	B*	C	D*	E*	F	G	H	
該当	度数	26	22	34	16	18	20	26	39	55	37	47	34	85	39	34	33	565
	%	10.0%	7.4%	7.2%	6.3%	9.1%	7.2%	8.0%	10.0%	15.9%	16.4%	13.7%	17.3%	14.9%	13.8%	15.1%	14.9%	11.0%
	調整済み残差	-.8	-2.4	-3.1	-2.7	-1.1	-2.3	-2.1	-1.0	2.6	2.3	1.3	2.6	2.7	1.2	1.7	1.6	
非該当	度数	235	277	436	237	180	257	300	350	291	188	297	162	485	243	191	189	4318
	%	90.0%	92.6%	92.8%	93.7%	90.9%	92.8%	92.0%	90.0%	84.1%	83.6%	86.3%	82.7%	85.1%	86.2%	84.9%	85.1%	88.4%
	調整済み残差	.8	2.4	3.1	2.7	1.1	2.3	2.1	1.0	-2.6	-2.3	-1.3	-2.6	-2.7	-1.2	-1.7	-1.6	
合計	度数	261	299	470	253	198	277	326	389	346	225	344	196	570	282	225	222	4883
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注1) Pearsonのカイ2乗値64.782、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

注2) 調整済み残差|2|以上の地域に「*」印をつけている。

表5-1-6 現在の悩み・心配事としての「孤立感・孤独感」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	553	651	1204
	%	22.9%	28.6%	25.7%
	調整済み残差	-4.5	4.5	
なし	度数	1862	1625	3487
	%	77.1%	71.4%	74.3%
	調整済み残差	4.5	-4.5	
合計	度数	2415	2276	4691
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値19.984、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

表5-1-7 困りごと「話し相手や相談相手がない」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	201	364	565
	%	8.1%	15.1%	11.6%
	調整済み残差	-7.6	7.6	
非該当	度数	2272	2046	4318
	%	91.9%	84.9%	88.4%
	調整済み残差	7.6	-7.6	
合計	度数	2473	2410	4883
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値58.050、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

(2) 相談相手

ここでは、各種相談相手として、行政職員、医療機関（人）、民間の支援提供組織（人）、インフォーマルへの該当の有無について再集計・分析を行った⁴⁾。アンケート中、相談相手に関する選択肢の整理の方法は次の通りである。

- ・ 行政職員：選択肢「行政の職員」
- ・ 医療機関：選択肢「かかりつけ医」、「病院」
- ・ 民間の支援提供組織（人）： 選択肢「地域包括支援センターの職員」、「ケアマネージャー」、「民生委員」、「ホームヘルパーやデイサービスなど、サービス事業所の職員」、「NPOやボランティアの人」
- ・ インフォーマル： 「家族・親族」、「友人・知人」、「近所の人」、「町会・自治会の役員」、「職場の人」

①行政職員

表5-2-1から表5-2-3をみると、いずれにおいても行政職員を相談相手とする場合は1割未満となっている。しかし、持ち家／持ち家以外の間では有意差が認められており（ $p<.01$ ）、持ち家以外の方が行政職員を相談相手とする傾向があることがわかる。

②医療機関

表5-2-4から表5-2-6をみると、医療機関が相談相手となっている場合は、健康に関しては約6割、「ふだんの生活」では約2割、現在の「悩みや心配事」では1割未満となっている。現在の「悩みや心配事」では、有意差が認められる（ $p<.01$ ）。

③民間の支援提供組織（人）

表5-2-7から表5-2-9をみると、民間の支援提供組織（人）が相談相手となっている場合は、健康・「ふだんの生活」では1割台、現在の「悩みや心配事」では1割未満となっている。これらのうち、「ふだんの生活」、現在の「悩みや心配事」では、有意差が認められ（ $p<.01$ ）、

持ち家以外の方が、民間の支援提供組織（人）に相談している傾向がある。

④インフォーマル

表5-2-10から表5-2-12をみると、インフォーマルな関わりの人が相談相手となっている場合は、行政の職員、医療機関（健康相談除く）、民間の支援提供機関（人）よりも高い割合となっている。また、健康、「ふだんの生活」については、有意差が認められ（ $p<.01$ ）、持ち家の方が、インフォーマルな関わりの人に相談している傾向がある。

表5-2-1 「健康のことで相談できる人」行政職員×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	10	114	124
	%	.5%	6.3%	3.4%
	調整済み残差	-9.7	9.7	
なし	度数	1865	1709	3574
	%	99.5%	93.7%	96.6%
	調整済み残差	9.7	-9.7	
合計	度数	1875	1823	3698
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注1) Pearsonのカイ2乗値93.322、カイ2乗検定による漸近有意確率（両側）.000

注2) Fisherの直接法による正確有意確率（両側）.000

表5-2-2 「ふだんの生活のことで、相談できる人」行政職員×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	13	125	138
	%	.8%	8.1%	4.3%
	調整済み残差	-10.4	10.4	
なし	度数	1687	1414	3101
	%	99.2%	91.9%	95.7%
	調整済み残差	10.4	-10.4	
合計	度数	1700	1539	3239
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値107.194、カイ2乗検定による漸近有意確率（両側）4.036E-25

表5-2-3 現在の「悩みや心配事を相談できる人」行政職員×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	11	116	127
	%	.5%	5.2%	2.8%
	調整済み残差	-9.8	9.8	
なし	度数	2335	2110	4445
	%	99.5%	94.8%	97.2%
	調整済み残差	9.8	-9.8	
合計	度数	2346	2226	4572
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値95.116、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

表5-2-4 「健康のことで相談できる人」医療機関×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	1112	1038	2150
	%	59.3%	56.9%	58.1%
	調整済み残差	1.5	-1.5	
なし	度数	763	785	1548
	%	40.7%	43.1%	41.9%
	調整済み残差	-1.5	1.5	
合計	度数	1875	1823	3698
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値2.129、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).145

表5-2-5 「ふだんの生活のことで、相談できる人」医療機関×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	335	319	654
	%	19.7%	20.7%	20.2%
	調整済み残差	-.7	.7	
なし	度数	1365	1220	2585
	%	80.3%	79.3%	79.8%
	調整済み残差	.7	-.7	
合計	度数	1700	1539	3239
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値5.23、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).469

表5-2-6 現在の「悩みや心配事を相談できる人」医療機関×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	139	192	331
	%	5.9%	8.6%	7.2%
	調整済み残差	-3.5	3.5	
なし	度数	2207	2034	4241
	%	94.1%	91.4%	92.8%
	調整済み残差	3.5	-3.5	
合計	度数	2346	2226	4572
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値12.402、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).000

表5-2-7 「健康のことで相談できる人」民間の支援提供組織(人)×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	258	280	538
	%	13.8%	15.4%	14.5%
	調整済み残差	-1.4	1.4	
なし	度数	1617	1543	3160
	%	86.2%	84.6%	85.5%
	調整済み残差	1.4	-1.4	
合計	度数	1875	1823	3698
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値1.902、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).168

表5-2-8 「ふだんの生活のことで、相談できる人」民間の支援提供組織(人)×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	245	276	521
	住居形態の%	14.4%	17.9%	16.1%
	調整済み残差	-2.7	2.7	
なし	度数	1455	1263	2718
	住居形態の%	85.6%	82.1%	83.9%
	調整済み残差	2.7	-2.7	
合計	度数	1700	1539	3239
	住居形態の%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値7.423、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側).006

表5-2-9 現在の「悩みや心配事を相談できる人」民間の支援提供組織（人）×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	135	182	317
	%	5.8%	8.2%	6.9%
	調整済み残差	-3.2	3.2	
なし	度数	2211	2044	4255
	%	94.2%	91.8%	93.1%
	調整済み残差	3.2	-3.2	
合計	度数	2346	2226	4572
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値10.380、カイ2乗検定による漸近有意確率（両側）.001

表5-2-10 「健康のことで相談できる人」インフォーマル×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	1502	1137	2639
	%	80.1%	62.4%	71.4%
	調整済み残差	11.9	-11.9	
なし	度数	373	686	1059
	%	19.9%	37.6%	28.6%
	調整済み残差	-11.9	11.9	
合計	度数	1875	1823	3698
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値142.291、カイ2乗検定による漸近有意確率（両側）8.400E-33

表5-2-11 「ふだんの生活のことで、相談できる人」インフォーマル×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	1475	1063	2538
	%	86.8%	69.1%	78.4%
	調整済み残差	12.2	-12.2	
なし	度数	225	476	701
	%	13.2%	30.9%	21.6%
	調整済み残差	-12.2	12.2	
合計	度数	1700	1539	3239
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値149.120、カイ2乗検定による漸近有意確率（両側）2.700E-34

表5-2-12 現在の「悩みや心配事を相談できる人」インフォーマル×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
あり	度数	951	851	1802
	%	40.5%	38.2%	39.4%
	調整済み残差	1.6	-1.6	
なし	度数	1395	1375	2770
	%	59.5%	61.8%	60.6%
	調整済み残差	-1.6	1.6	
合計	度数	2346	2226	4572
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値2.546、カイ2乗検定による漸近有意確率（両側）.111

⑤地域による傾向の違い

持ち家／持ち家以外にみた相談相手の分析では、設問毎に結果をみる形であった。ここでは、より総合的な比較するため、次の作業を行った。

健康、「ふだんの生活」、現在の「悩み・心配事」それぞれに対する各種相談相手の割合（%）を、地域包括支援センター（持ち家／持ち家以外の別あり、計16グループ）間で順位化（%の最大値：1位）する。次に、各設問での順位を合計し、最小・最大となるグループの値の間を4等分する（多い・やや多い・やや少ない・少ない）。そして、各グループの合計値が、多い・やや多い・やや少ない・少ない、のどこに位置するかをまとめたものが、表5-2-13である。

この表をみると、持ち家の場合、インフォーマル（B地域除く）が多い方に、行政の職員、民間の支援提供組織（人）（A、H地域除く）は少ない方に該当する。持ち家以外では、行政の職員、民間の支援提供組織（人）が多い方に、インフォーマル（A、E地域除く）は少ない方に該当する。医療機関については、いずれの住居形態でも共通した傾向は見られなかった。

表5-2-13 住居形態・地域包括支援センター別 相談相手の傾向

		持ち家							
地域包括支援センター		A	B	C	D	E	F	G	H
行政の職員		▽	▼	▽	▼	▼	▼	▼	▼
医療機関		○	▽	▽	○	▼	●	▼	▼
民間の支援提供組織・人		○	▼	▽	▼	▽	▼	▼	○
インフォーマル		●	▽	●	●	○	○	●	○
		持ち家以外							
地域包括支援センター		A	B	C	D	E	F	G	H
行政の職員		●	●	●	○	○	●	●	○
医療機関		▽	○	●	▽	▽	▽	○	○
民間の支援提供組織・人		○	○	●	●	●	●	○	●
インフォーマル		○	▼	▼	▼	○	▼	▽	▽

注) 多い (●)、やや多い (○)、やや少ない (▽)、少ない (▼)

(3) 緊急時に頼ることができる人の有無

いざという時に頼ることができる人の有無については、次の設問のすべてで「いない、わからない」と回答した場合に着目して再集計を行った。

- ・「急病のときに、かけつけてくれそうな、身近な人はいますか」
- ・「入院しなければならない時に、病院に付き添ってくれそうな人はいますか」
- ・「大地震等の災害が発生したときに、自分の安否を気にかけて、かけつけてくれそうな人はいますか」
- ・「数万円以内の急な用立て等ちょっとした金銭的な支援を頼めそうな人はいますか」

その結果、表5-3にみるように、持ち家4.0%、持ち家以外13.6%、全体で約1割が、緊急時に頼ることができる人がいない、あるいはわからない状態にある。

表5-3 緊急時に頼ることができる人が「いない、わからない」×住居形態

		持ち家	持ち家以外	合計
該当	度数	106	342	448
	%	4.0%	13.6%	8.7%
	調整済み残差	-12.3	12.3	
非該当	度数	2546	2164	4710
	%	96.0%	86.4%	91.3%
	調整済み残差	12.3	-12.3	
合計	度数	2652	2506	5158
	%	100.0%	100.0%	100.0%

注) Pearsonのカイ2乗値151.292、カイ2乗検定による漸近有意確率(両側) 9.049E-35

6. 地域に関する困りごと

当該アンケートでは、地域で困っていること〔「現在、ひとりぐらしを続けるにあたって、お住まいの地域のこと」で困っていること、不便を感じていること〕についても尋ねている。紙面の関係から、詳細をとりあげることはできないが、この設問の選択肢⁵⁾(「特になし」除く)を表5-2-13同様の方法で整理したものが表6である。持ち家どうし、持ち家以外どうしで共通した傾向は見られなかった。地

表6 住居形態・地域包括支援センター別 「地域のことで困っていること・不便を感じていること」の傾向

		持ち家							
地域包括支援センター		A	B	C	D	E	F	G	H
「地域のことで困っていること・不便を感じていること」		▽	●	▼	▼	○	▼	●	○
		持ち家以外							
地域包括支援センター		A	B	C	D	E	F	G	H
「地域のことで困っていること・不便を感じていること」		▽	●	○	●	●	▼	▽	▽

注) 多い (●)、やや多い (○)、やや少ない (▽)、少ない (▼)

域包括支援センター毎にみても、傾向が同じ場合（A、B、F）もあれば、対極にある場合（D）もあった。

IV. まとめ

今回の分析では、ひとり暮らしのきっかけ、経済状況、健康について、持ち家以外の住居形態の場合で、内閣府（2010）における社会的孤立の特徴との一致がみられた。また、住居形態別のみでみた場合、健康、経済的な状況、普段の楽しみ、人とのつながりの結果から、持ち家以外の方が、厳しい生活状況にある傾向が窺えた。

本稿のはじめにふれたように、内閣府（2010）では、社会的孤立への対策として、つながりの創出をはじめとして、多様な支援の展開が要点となっている。持ち家以外の場合、衣食住に関わる事柄を含め、問題が複合化しやすいことが懸念される。地域包括支援センター別の分析では、同じ住居形態でも、人とのつながりに対するニーズ・相談相手となる人・「地域のことで困っていること、不便を感じていること」について、地域により異なる傾向が示される場合も示してきた。社会的孤立の防止へ向けた、行政と民間の協働による仕組みづくりのなかで、抱えている問題の内容・深さ、人とのつながり方、ニーズの違いに対応するには、セーフティネット構築の視点が非常に重要ではないかと考えられた。

【注】

- 1) 「『家族や地域社会との交流が、客観的にみて著しく乏しい状態』」〔内閣府（2010）〕
- 2) 持ち家：選択肢「1. 持ち家：一戸建て」、 「2. 持ち家：集合住宅」
持ち家以外：選択肢「3. 民間の借家：一戸建て」、 「4.

民間の借家：集合住宅」、 「5. 区営住宅・都営住宅」、 「6. 公社・公団住宅」、 「7. 間借り」、 「8. その他」

- 3) 本稿で使用した各種集計は、無回答分を除外したものとなっている。
- 4) アンケート中、「健康のことで困っていること」（問16）、「ふだんの生活で、困っていること」（問17）、現在の「悩みや心配事」（問18）に挙げられた選択肢（「特に困っていることはない」、「特に悩んでいることはない」除く）のいずれかに該当した場合、その相談相手についても尋ねている。
「ふだんの生活で、困っていること」の選択肢は、「外出しにくくなってきた」、「調理がしにくくなってきた」など、できなくなってきたことに着目した内容となっている。現在の「悩みや心配事」の選択肢は、問16・問17以外の内容となっており、「孤立感・孤独感」、「振り込め詐欺や悪質商法の被害にあうのではないか」、「いつも何かと周囲の世話になることが多い」、などがある。
- 5) 選択肢は次の通り。

「1. 話し相手や相談相手がいない」、「2. 気軽に立ち寄れる喫茶店やレストラン、定食屋など外食できるところが少ない」、「3. 近くに銭湯がない」、「4. 散歩をして楽しいところがない」、「5. 仲間と集まって、趣味活動やおしゃべりなどをできるところがない」、「6. 悪質な訪問販売員や営業販売員の訪問が多い」、「7. 空き巣が多いなど、治安面での不安がある」、「8. バス停や駅が遠く、公共交通が使いにくい」、「9. 交通量が多く、道路を歩いていると危ない」、「10. 近くに、いい医者や病院が見つからない」、「11. その他のこと」、「12. 特にない」。

参考文献

内閣府編（2010）『高齢社会白書』, (<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2010/zenbun/22index.html>, 2010.11.8).